

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370400752		
法人名	一般社団法人 日本地域福祉協会		
事業所名	街かどケアホーム ゆうか		
所在地	愛知県名古屋市中区中小田井2丁目425		
自己評価作成日	平成22年12月30日	評価結果市町村受理日	平成23年3月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ケア・ウィル		
所在地	愛知県名古屋市中村区椿町21-2 第2太閤ビルディング9階		
訪問調査日	平成23年1月20日	評価確定日	平成23年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設当初より、ご利用者一人一人のペースで「その方らしい生活」をお送りいただけるように、ご利用者の意思を尊重し、アセスメントを詳細に行い、ご要望に基づいた介護計画を立案し、押し付けのない個別ケアに力を入れてきました。しかしながら3年前にさらにご利用者やご家族に高い満足度を提供するため、「ホスピタリティの精神の下、言葉にされないニーズにもお応えしていく」という新たな理念を掲げ、介護サービス業ではなく「介護ホスピタリティ業」として再スタートをきり、今日まで至っております。一瞬一瞬相手の立場になって考え、どうすればご利用者に喜んでいただくことができるか？どうすれば感動をお伝えできるか？既存のマニュアルでは創り出すことができない心のこもったサービスを提供し、感動を味わっていただくことが私たちの最終目標です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ノーマライゼーションの考えに基づき、高齢者本人の意思を尊重し、誰もが自立した生活と自己実現ができる地域福祉の構築を目指している。職員は、人生の先輩である入居者に、これまでに培ってきた経験を教えていただくという姿勢を忘れず、マナーと責任を持ち、感謝の気持ちを大切に日々のケアに取り組んでいる。入居者に今までの生活をホームでも継続してもらえるように、個別支援に力を入れており、入居者の要望や希望が表出されたその瞬間に実現できるよう取り組んでいる。ホームの集会室を地域に開放しており、地域の会合に利用してもらったり、ホーム主催の音楽コンサートを開催し、地域の方の参加があるなど良好な関係がうかがえる。また、子ども達も自由にホームにあそびに来ており、夏場にはアイスクリームの機械を置きた子どもたちに提供している。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter)-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域福祉の推進」が法人として掲げている理念であり、職員は入社時に、理念を実現していくため必要な考え方や知識、コンセプト、行動規範等を各自自分のものとした上で研修終了とし、現場業務の独り立ちをする。	理念はノーマライゼーションの考え方を基本に6項目を掲げている。職員には入社時の研修で時間をかけ伝えている。その人らしく、その人らしい生活と一期一会の精神を理解し、「その時」を大切にしている。職員側から見た視点ではなく、利用者の観点から考え、頭で考えるのではなく、心で感じるケアを日々実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会や地域のお祭り等のイベントへの参加や、事業所で開催するイベントに協力していただいたり交流を図っている。近隣の学校の社会見学等受け入れをさせていただいている。	地域の清掃や祭り等のイベントに入居者も一緒に参加しており、近所の写真館や美容院、花屋等を日常的に利用している。ホームで入居者の作品展を行った際には、地域の方の訪問もあり、入居者の励みにもなった。クリスマス会には子ども達があそびにきてくれる等、地域との交流が図られ、集客室は地域に開放している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日頃より「認知症高齢者」としてではなく、地域住民の一員として買い物や催し物への参加を通し、一緒に生活することで、差別や偏見をなくす啓蒙を行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーの方々には地域のお花屋さんや美容室の方、写真屋さん等、日頃からお世話になっている地域の方々に参加いただくことから、日頃のサービス提供の幅を広げることができてきている。	町内会長、協力医や看護師、地域の商店の方々、入居者、家族、職員をメンバーとしている。会議では利用状況や職員の異動、日常のケア、行事の取り組みについて報告されている。家族には開催前に案内を送り議事録は後日送付している。	8月以降、運営推進会議の開催が滞っている状態である。地域包括支援センターの参加にはまだ至っていないことから、継続的に呼びかけていくことを期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が必要に応じて、行政担当者との連携をとり情報共有に努めている。	区役所の保護係や介護保険課には、申請等で定期的に訪問している。事業所の運営に関して困ったことが生じた場合には相談にのってもらっている。また、市の研修会には管理者が参加をしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は常に入出入りが自由になっている。また、声かけやその他間接的に抑制してしまう行為も身体拘束に繋がるということを入社時の研修にて指導している。	玄関は何時でも開錠しており、入居者は自由に出入りできる。基本的に身体拘束は行わない方針であり、一人で外出する入居者には、GPSを携帯してもらい居場所を把握できるようにし、迷われた場合に備えている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時の研修で高齢者虐待防止法については理解を徹底させている。また、自分がされたら嫌なことは決して他人にはしないという理念を常に念頭に置きケアサービスにあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所の金銭管理業務は管理者である施設長が担当しており、権利擁護センターを利用されているご利用者のサポートも個別にさせていただいている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時から、事業所概要の説明だけでなく、事業所の介護方針を具体的に説明し、パンフレット等による説明、重要事項説明の上、具体的なその方に対してのケアサービス内容を明確に提示し、ご理解を得た上で契約を締結している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より事業所に来訪された際にはケアサービス内容についてのご意見をお伺いしている。よりより事業所運営に向けて、ご家族や職員、地域の方々からご意見を頂戴し、サービスに繋げるナイスアイデアボードを玄関に設置している。	家族の訪問が多く、来訪時には家族の意見や要望を聞く場を設けている。玄関にナイスアイデアボードを設置し、意見や気がついたこと、アイデア等を来訪者に記入してもらえよう案内している。訪問時には実際に記入された用紙が掲示されていた。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営上の取り決めや制度等の追加変更の際には、必ず職員にパブリックコメントを求め、現場の状況を確認し、必要な説明を十分に行い業務を進めている。	職員が職員に感謝の気持ちを表す時に、グリーンカードに内容を記入し、掲示している。多くのカードを受け取った職員は表彰され、「ありがとう」の感謝の気持ちを大切にすることで、互いの信頼関係を深め、雰囲気の良い職場環境を目指している。職員の面談等は決まりはないが、職員から話が合った場合には、すぐに話し合う時間を作っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度やスキルアップ試験制度が整備され、がんばりや努力が、昇給や昇進に繋がる社内制度がある。また、残業時間の削減や休憩時間を取得すること等、法人の監事が事業所の状況を把握し内部監査を行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の研修が、法人理念や介護観、マナーやサービスコンセプトといった基本的知識と基本2週間のOJTである現場同行研修で、個人の習熟度に合わせて行われており、外部研修も希望者に関しては受講の機会が与えられている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国の同グループ事業所とはヒヤリハットや事故・苦情報告など、リアルタイムに情報を共有している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談はまず施設長が行うが、初回以降は現場職員が担当を決め訪問を行い、顔なじみの関係をつくることにより、安心して話ができたり、入居日に担当がお待ちしていることで、信頼関係の構築に繋がられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約を締結する前に、ご利用者・ご家族の思いやニーズの把握に努め、事業所で出来ること出来ないこと、実際の法人理念に基づいた具体的なケアサービス内容を個別にご説明し、選んでいただけるようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護保険法の理念でもある選択性を妨げたり、事業所内での抱え込みになることのない様、その方にとってマッチした環境であるかを念頭に置き相談業務にあたっている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として、常にこれまでの経験から教えていただく姿勢を忘れないという理念の下、上からでも下から目線でもなく、対等の立場で紳士淑女としてのマナーと責任を持ち「させていただく」という感謝の気持ちで望んでいる。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の要望や状況にもよるが、イベントに限らず、ご家族が水入らずで過ごせる時間を持つよう、配慮している。また、アセスメントやご利用者の個性を知る上でご家族に対してご利用者の情報をお聞きする機会は大変貴重な機会である。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の要望や気持ちにもよるが、入居時にはご自宅で過ごされていた生活をそのまま事業所にお持ちくださいと説明しており、行きつけのお店やお友達とお付き合ひもサポートさせていただいている。	馴染みの方の来訪は多くはないが、入居者の要望により、自宅を見に行ったり、近隣の喫茶店や食事処、カラオケ等行きつけの店に出かけている。入居者の希望に対しては、個別に支援しており、入居者は自宅で過ごしていた生活を変わずホームでも営めるよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の要望や気持ちにもよるが、お一人お一人の思いやお気持ちに寄り添い、言葉にされないニーズにも配慮できるよう努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所に遊びに来られることも少なくなく、大変ありがたい気持ちです。「近所で認知症で困っている方がいて、いい施設があるよって紹介しておいた」といわれると涙が出る想いです。お便りを書いたり、お中元お歳暮等お送りしています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「本人がどのような生活を望まれているのか」に着目し、本人が望まれないサービスは介護計画に立案していない。表現することが困難な場合はご家族や知人の方に以前の生活の様子をお聞きし、本人らしい生活が送れるよう努めています。	入居者の経験と知識に対して、常に尊厳と敬意の念を持って接している。自分がされて嫌なことは行わないのは固より、本人の意向が出されたその瞬間を大切に、実現できるよう皆で協力して取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や趣味嗜好に限らず、ご本人の想いをとげることができるよう、詳細なアセスメントに努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本の介護計画、アセスメントは常に各職員把握しており、日頃の状態の変化については細やかに観察に努め、関連職種連携の上、		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ニーズの変化や課題等が発見された場合にはリアルタイムに話し合いの場を設け、必要であればご家族にも連絡し、当日からケアサービス内容の変更を行っている。	介護計画の提供状況についての評価や入居者の満足度の確認を行い、新たな課題やニーズを見出し、介護計画を作成している。職員は介護計画を確認し、追加や変更がある場合には随時見直しが行われ、家族には来訪時や郵送にて確認してもらっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事や水分、排せつ等のご利用者の状態に関してのチェック表は活用している。ご利用者の個別のサービス提供状況とニーズの変化を記録する書式を現在作成し、来月より導入の見込み。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者がサービスのクリエイターであり、サービス内容に関しての制限は不可能なものではない限り行っていない。出来るかぎりお応えし、実現できるよう努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の一員としてご利用者は生活されており、ご利用者がよく行く写真店の店主とご利用者の関係から、事業所としてのお付き合いが始まったり、他のご利用者にも地域の情報は随時提供している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に協力医が事業所の向かいにあり、往診も対応していただけるので、利便性から協力医を主治医にされる方が多い。法人理念にもご理解いただける医師で、ご利用者の想いに耳を傾けていただくことができ、助かっている。	入居時に本人や家族の意向を聞き取り、確認をしている。かかりつけ医への受診を希望される入居者には、ホームで通院を支援している。また、協力医への受診にも対応しており、糖尿病の専門医の往診が毎週木曜日にある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療分野への越権行為となるような、介護職員のおごりで勝手な判断はしないように指導しており、ご利用者の状態変化はリアルタイムで協力医または事業所看護師に連絡し相談を行い、必要な指示を受けた上で業務にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された場合、お見舞いは毎日欠かさず行い、ご利用者の状態把握や、不安な気持ちへのサポートに努めている。ご利用者にとってベストな状態で施設復帰できるよう、ご利用者・ご家族・病院関係者とは協議している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より、ご利用者の先々の状態変化に備え、今後希望される生活環境や、事業所への要望の把握に努めている。	入居者時に、入居者や家族と話し合いを持ち、意向を確認している。また、状況に応じて本人、家族の意思をその都度確認しながら、ホームでできる限りの支援に努めており、本人や家族にも理解していただいている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習は入社時だけでなく、年に2回受講をさせている。また、必要時にはご利用者個別に対応のマニュアルを作成し、職員への周知徹底を図っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を定期的に行っている。	職員は入社時にAEDや心肺蘇生の講習を受けている。年2回、夜間を想定した避難訓練を実施しており、来月は消防署の協力を得て実施する予定である。災害時における備蓄品については、3日分備えており、定期的に食料や水など入れ替えを行い、管理している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人のサービスコンセプトの下に職員教育を行い、マナーやプライバシーの遵守を徹底している。	「その人らしい生活」を根幹に、職員は日々の支援に努めている。職員教育の中でもプライバシーの順守について徹底しており、入居者の居室に入る際のノックや挨拶に気をつけ、靴を脱いで入室している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どのような生活を送るのかはご利用者が決めることであり、職員はご利用者が自己決定することができるよう、サービスに選択性を持たせたり、提案する姿勢や確認をとることを怠らないようにサポートさせていただいている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のライフスタイルを出来るかぎりそのまま実現できるように、本人視点でのケアマネジメントを行い、ケアサービスにあたらせていただいている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者に恥をかかせてしまうことのない様、尊厳をお守りするサービスコンセプトの下に支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理に関してはご利用者個別の介護計画のサービス内容として対応しており、無理強いはしていない。楽しみとして、全国の名産品や流行りの食材、事業所で育てた野菜を日頃より取り入れ楽しんで頂いている。	カロリー計算された献立で、食材は業者に依頼している。全国の名産品を取り寄せ、秋田のきりたんぼや山口の瓦蕎麦などを提供したり、クリスマスには生ドーナツ、チョコレートフォンデュなどを楽しんでもらっている。法人内で料理コンテストも行われているなど、アイデアやバラエティーに富んだ食事が提供されている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事介助を推進するのではなく、まずは個別の嗜好や好みに着目し、食べたい物や美味しいもの、興味を引くものの提供から楽しく食事をとっていただけるように対応している。摂取量については把握を徹底し協力医と随時連携をとっている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日の始まりと終わりに声をかけ、一緒に行っている。また、ご自分からされる方もいる。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーや尊厳に最大限配慮し、ご利用者が恥ずかしい思いをしないよう、慎重にケアにあたっている。お一人お一人の状態や想いに沿った形で対応している。排泄物の形、量、リズムのチェックはご利用者に応じて行っている。	排泄介助の際は、入居者のプライバシーや尊厳を守り、本人に不快な思いをさせないよう努めている。入居者個々の状態を把握し、希望に沿った支援に取り組み、状態によっては排泄チェック表をつけ、パターンを把握し自立に向け支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の中で食物繊維の多い食材を使用したり必要に応じて便秘薬を使われる方もいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個別のアセスメントに則した介護計画に沿う形で、確認をとりながら対応している。	介護計画に沿って入浴支援を行っている。入浴日を設けず、本人の希望により毎日の入浴にも対応している。入浴剤を使用したり、季節に応じて菖蒲湯やゆず湯なども楽しんでもらっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の時間や就寝時間は決まっていない。ご利用者のリズムや、その方の0お身体の状態に合わせて休息をとることができるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の服薬内容については理解を周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの入居者のご趣味を楽しんで頂けるように、個別の支援をしている。写真、園芸、調理、お花、カラオケ、喫茶など。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出先や外出方法等の制限は設けておらず、ご利用者の要望にお応えしたり、喜んでいただけるような場所へご案内したり、可能なかぎりお応えしている。	特に散歩の時間は設けず、入居者が希望された時に支援している。カメラが趣味の方には、本人の希望の場所に出かけており、外食(寿司、喫茶店等)や神社への参拝、遠出の外出支援も入居者の希望に沿えるよう取り組んでいる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の要望により、本人が所持するか、事業所がお預かりするかを決めている。事業所の金銭管理(本人所自分は除く)の一切は施設長が行っており、ご利用者にもお伝えしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所の電話を無料で自由にお使いいただいている。手紙も自由であり、ご利用者宛てに届いたお手紙も職員が内容を確認することは当然ない。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の立てる足音や物音にも最大限配慮し、リラックスクスできるアロマやお香、心地よい音楽、馴染みの音楽、目で楽しめる室内装飾、過ごしやすい温度を感じていただけるよう配慮している。	玄関先には、種から育てたパンジーが咲いており、夏にはゴーヤのカーテンを見ることができる。2、3階のベランダでもプランターで花を育て、クリスマスにはライトアップされ、入居者の楽しみの一つとなっている。玄関内には、職員の顔写真付きで紹介されている。リビングは日当たりがよく、ソファで日向ぼっこを楽しむこともできる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングレイアウトは互いに気を使わず、仲の良い方同士で過ごすことができるよう、目線や導線に気を配り、日々工夫をしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持ち込みの制限は特に行っていない。使い慣れた馴染みのものを持ってきていただけるようご案内している。	居室には、入居者の希望に応じてベッドや畳にしており、昔から使用していた、タンスや机、椅子、仏壇、冷蔵庫、テレビなどを持ち込み、それぞれ個性のある居室となっている。タバコなどは、喫煙スペースを設け、椅子や暖房を置き楽しんでもらっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の目線と導線、行動パターンを注意深く観察し、環境を最大限にわかりやすく使いやすくすることに努めている。また月に一度建物内の家具の総点検を実施し、危険のない様に努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370400752		
法人名	一般社団法人 日本地域福祉協会		
事業所名	街かどケアホーム ゆうか		
所在地	愛知県名古屋市中区中小田井2丁目425		
自己評価作成日	平成22年12月30日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設当初より、ご利用者一人一人のペースで「その方らしい生活」をお送りいただけるように、ご利用者の意思を尊重し、アセスメントを詳細に行い、ご要望に基づいた介護計画を立案し、押し付けのない個別ケアに力を入れてきました。しかしながら3年前にさらにご利用者やご家族に高い満足度を提供するため、「ホスピタリティの精神の下、言葉にされないニーズにもお応えしていく」という新たな理念を掲げ、介護サービス業ではなく「介護ホスピタリティ業」として再スタートをきり、今日まで至っております。一瞬一瞬相手の立場になって考え、どうすればご利用者に喜んでいただくことができるか？どうすれば感動をお伝えできるか？既存のマニュアルでは創り出すことができない心のこもったサービスを提供し、感動を味わっていただくことが私たちの最終目標です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域福祉の推進」が法人として掲げている理念であり、職員は入社時に、理念を実現していくため必要な考え方や知識、コンセプト、行動規範等を各自自分のものとした上で研修終了とし、現場業務の独り立ちをする。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会や地域のお祭り等のイベントへの参加や、事業所で開催するイベントに協力していただいたり交流を図っている。近隣の学校の社会見学等受け入れをさせていただいている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日頃より「認知症高齢者」としてではなく、地域住民の一員として買い物や催し物への参加を通し、一緒に生活することで、差別や偏見をなくす啓蒙を行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーの方々には地域のお花屋さんや美容室の方、写真屋さん等、日頃からお世話になっている地域の方々に参加いただくことから、日頃のサービス提供の幅を広げることができてきている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が必要に応じて、行政担当者との連携をとり情報共有に努めている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は常に出入りが自由にできるようになっている。また、声かけやその他間接的に抑制してしまう行為も身体拘束に繋がるということを入社時の研修にて指導している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時の研修で高齢者虐待防止法については理解を徹底させている。また、自分がされたら嫌なことは決して他人にはしないという理念を常に念頭に置きケアサービスにあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所の金銭管理業務は管理者である施設長が担当しており、権利擁護センターを利用されているご利用者のサポートも個別にさせていただいている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時から、事業所概要の説明だけでなく、事業所の介護方針を具体的に説明し、パンフレット等による説明、重要事項説明の上、具体的なその方に対するケアサービス内容を明確に提示し、ご理解を得た上で契約を締結している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より事業所に来訪された際にはケアサービス内容についてのご意見をお伺いしている。よりより事業所運営に向けて、ご家族や職員、地域の方々からご意見を頂戴し、サービスに繋げるナイスアイデアボードを玄関に設置している。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営上の取り決めや制度等の追加変更の際には、必ず職員にパブリックコメントを求め、現場の状況を確認し、必要な説明を十分に行い業務を進めている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度やスキルアップ試験制度が整備され、がんばりや努力が、昇給や昇進に繋がる社内制度がある。また、残業時間の削減や休憩時間を取得すること等、法人の監事が事業所の状況を把握し内部監査を行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の研修が、法人理念や介護観、マナーやサービスコンセプトといった基本的知識と基本2週間のOJTである現場同行研修で、個人の習熟度に合わせた行われており、外部研修も希望者に関しては受講の機会が与えられている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国の同グループ事業所とはヒヤリハットや事故・苦情報告など、リアルタイムに情報を共有している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談はまず施設長が行うが、初回以降は現場職員が担当を決め訪問を行い、顔なじみの関係をつくることにより、安心して話ができたり、入居日に担当がお待ちしていることで、信頼関係の構築に繋がれるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約を締結する前に、ご利用者・ご家族の思いやニーズの把握に努め、事業所で出来ること出来ないこと、実際の法人理念に基づいた具体的なケアサービス内容を個別にご説明し、選んでいただけるようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護保険法の理念でもある選択性を妨げたり、事業所内での抱え込みになることのない様、その方にとってマッチした環境であるかを念頭に置き相談業務にあたっている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として、常にこれまでの経験から教えていただく姿勢を忘れないという理念の下、上からでも下から目線でもなく、対等の立場で紳士淑女としてのマナーと責任を持ち「させていただく」という感謝の気持ちで望んでいる。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の要望や状況にもよるが、イベントに限らず、ご家族が水入らずで過ごせる時間を持てるよう、配慮している。また、アセスメントやご利用者の個性を知る上でご家族に対してご利用者の情報をお聞きする機会は大変貴重な機会である。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の要望や気持ちにもよるが、入居時にはご自宅で過ごされていた生活をそのまま事業所にお持ちくださいと説明しており、行きつけのお店やお友達とのお付き合いもサポートさせていただいている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の要望や気持ちにもよるが、お一人お一人の思いやお気持ちに寄り添い、言葉にされないニーズにも配慮できるよう努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所に遊びに来られることも少なくなく、大変ありがたい気持ちです。「近所で認知症で困っている方がいて、いい施設があるよって紹介しておいた」といわれると涙が出る想いです。お便りを書いたり、お中元お歳暮等お送りしています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「本人がどのような生活を望まれているのか」に着目し、本人が望まれないサービスは介護計画に立案していない。表現することが困難な場合はご家族や知人の方に以前の生活の様子をお聞きし、本人らしい生活が送れるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や趣味嗜好に限らず、ご本人の想いをとげることができるよう、詳細なアセスメントに努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本の介護計画、アセスメントは常に各職員把握しており、日頃の状態の変化については細やかに観察に努め、関連職種連携の上、		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ニーズの変化や課題等が発見された場合にはリアルタイムに話し合いの場を設け、必要であればご家族にも連絡し、当日からケアサービス内容の変更を行っている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事や水分、排せつ等のご利用者の状態に関してのチェック表は活用している。ご利用者の個別のサービス提供状況とニーズの変化を記録する書式を現在作成し、来月より導入の見込み。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者がサービスのクリエイターであり、サービス内容に関しての制限は不可能なものでない限り行っていない。出来るかぎりお応えし、実現できるよう努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の一員としてご利用者は生活されており、ご利用者がよく行く写真店の店主とご利用者の関係から、事業所としてのお付き合いが始まったり、他のご利用者にも地域の情報は随時提供している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に協力医が事業所の向かいにあり、往診も対応していただけるので、利便性から協力医を主治医にされる方が多い。法人理念にもご理解いただける医師で、ご利用者の想いに耳を傾けていただくことができ、助かっている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療分野への越権行為となるような、介護職員のおごりで勝手な判断はしないように指導しており、ご利用者の状態変化はリアルタイムで協力医または事業所看護師に連絡し相談を行い、必要な指示を受けた上で業務にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された場合、お見舞いは毎日欠かさず行い、ご利用者の状態把握や、不安な気持ちへのサポートに努めている。ご利用者にとってベストな状態で施設復帰できるよう、ご利用者・ご家族・病院関係者とは協議している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より、ご利用者の先々の状態変化に備え、今後希望される生活環境や、事業所への要望の把握に努めている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習は入社時だけでなく、年に2回受講をさせている。また、必要時にはご利用者個別に対応のマニュアルを作成し、職員への周知徹底を図っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を定期的に行っている。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人のサービスコンセプトの下に職員教育を行い、マナーやプライバシーの遵守を徹底している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どのような生活を送るのかはご利用者が決めることであり、職員はご利用者が自己決定することができるよう、サービスに選択性を持たせたり、提案する姿勢や確認をとることを怠らないようにサポートさせていただいている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のライフスタイルを出来るかぎりそのまま実現できるように、本人視点でのケアマネジメントを行い、ケアサービスにあたらせていただいている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者に恥をかかせてしまうことのない様、尊厳をお守りするサービスコンセプトの下に支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理に関してはご利用者個別の介護計画のサービス内容として対応しており、無理強いはしていない。楽しみとして、全国の名産品や流行りの食材、事業所で育てた野菜を日頃より取り入れ楽しんで頂いている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事介助を推進するのではなく、まずは個別の嗜好や好みに着目し、食べたい物や美味しいもの、興味を引くものの提供から楽しく食事をとっていただけるように対応している。摂取量については把握を徹底し協力医と随時連携をとっている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日の始まりと終わりに声をかけ、一緒に行っている。また、ご自分からされる方もいる。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーや尊厳に最大限配慮し、ご利用者が恥ずかしい思いをしないよう、慎重にケアにあたっている。お一人お一人の状態や想いに沿った形で対応している。排泄物の形、量、リズムのチェックはご利用者に応じて行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の中で食物繊維の多い食材を使用したり必要に応じて便秘薬を使われる方もいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個別のアセスメントに則した介護計画に沿う形で、確認をとりながら対応している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の時間や就寝時間は決まっていない。ご利用者のリズムや、その方のお身体の状態に合わせて休息をとることができるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の服薬内容については理解を周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの入居者のご趣味を楽しんで頂けるように、個別の支援をしている。写真、園芸、調理、お花、カラオケ、喫茶など。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出先や外出方法等の制限は設けておらず、ご利用者の要望にお応えしたり、喜んでいただけるような場所へご案内したり、可能なかぎりお応えしている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の要望により、本人が所持するか、事業所がお預かりするかを決めている。事業所の金銭管理(本人所自分は除く)の一切は施設長が行っており、ご利用者にもお伝えしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所の電話を無料で自由にお使いいただいている。手紙も自由であり、ご利用者宛てに届いたお手紙も職員が内容を確認することは当然ない。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の立てる足音や物音にも最大限配慮し、リラックスできるアロマやお香、心地よい音楽、馴染みの音楽、目で楽しめる室内装飾、過ごしやすい温度を感じていただけるよう配慮している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングレイアウトは互いに気を使わず、仲の良い方同士で過ごすことができるよう、目線や導線に気を配り、日々工夫をしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持ち込みの制限は特に行っていない。使い慣れた馴染みのものを持ってきていただけるようご案内している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の目線と導線、行動パターンを注意深く観察し、環境を最大限にわかりやすく使いやすくすることに努めている。また月に一度建物内の家具の総点検を実施し、危険のない様に努めている。		

(別紙4(2))

事業所名: 街かどケアホームゆうか

作成日: 平成23年2月24日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	-4	運営推進会議の開催について、二か月に一回の実施ができていない。	二か月に一度の定期的な開催。	より幅広い方々への参加の呼びかけの実施。事業所地域交流室をご利用されている方々へ事業所の取り組み等についての広報活動を行う。事業所行事の様子等の写真や記事を掲示する。	12ヶ月
2	-33	重度化や終末期に向けた方針・サービス提供体制の質の向上を目指す。	ご利用者やご家族に対してのより安心感のあるサービスの提供。	医療連携体制の確保、医療連携体制加算の取得。	2ヶ月
3	-13	職員を育てる取り組みについて、法人内研修については職員の習熟度に合わせ、講義とOJTを行っているが、外部の研修に参加する機会が少ない。	一般的な介護等に関する基礎知識や法人外の考え方について触れる機会を持ち、より広い視野をもってサービス提供に携われるようにする。	年間を通して外部研修への参加を促進する。外部で行われている研修や講習の情報の収集と職員への受講の呼びかけを行う。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月
6					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。